

(学校番号083) 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野西北小学校】

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	6年生に関しては、国語・算数ともにR5年度の市学習状況調査が、R4年度の全国学力・学習状況調査の「知識・技能」の部分において正答している割合が上昇している児童を70%以上にする。 3・4・5年生の算数に関しては市学習状況調査「知識・技能」を問う問題で85%以上にする。国語に関しては、市学習状況調査で市の平均よりも上回れるようにする。	⇒ 昨年度の結果から、「文章の読み取り」や「話すこと、聞くこと」の向上を図るため、「ドリルパーク」「げんご郎」等「スタディサプリ」を積極的に活用しつつ、日々の各授業や特別活動において重点的に支援する。
思考・判断・表現	6年生に関しては、国語・算数ともにR5年度の市学習状況調査が、R5年度の全国学力・学習状況調査の「思考・判断」の部分において正答している割合が上昇している児童を70%以上にする。 3・4・5年生の算数に関しては学期末テストで「思考・判断」を問う問題を80%以上にする。国語に関しては、市学習状況調査で市の平均よりも上回れるようにする。	⇒ 昨年度の結果をもとに、国語の「思考・判断」について伸ばしていくようにする。学習の時間において自分の考えを深める時間を確保する。また、一人ひとりの意見に目を通して評価をする。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査の質問事項において、国語・算数が好きであるかの項目で肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 昨年度の結果をもとに、本校児童の「やる気を生かした授業」を進める。具体的には、授業の導入や発問の工夫を主体的に活動できる内容を積極的に取り入れていく。また、児童が学び方を理解できるように学習計画を立てて進めていく経験を学年に応じ取り組む。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析		
	全国学力・学習状況調査結果	国語：-3Pt 算数：-3Pt
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語-3pt、算数-5ptであった。国語では、情報の整理の仕方や漢字や文章の種類とその特徴の理解を正しく答える問題に対して、誤答する児童が多かった。算数では、乗法計算、図形の定義・性質、割合の問題に対して、誤答する児童が多かった。また、各設問においても無回答児童がいることが課題である。	
思考・判断・表現	国語では、「話す聞く」力を問う設問や「文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる」の設問において誤答する児童が多かった。算数では「図形」、「示された日常生活の場面を解釈し設問に答える」の設問において誤答する児童が多く見られた。多角形の面積を求める式の言葉や数を用いて解答する問題では公式の意味を理解していないことが考えられる。	
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査において、国語・算数が好きであるかの質問項目で、肯定的な回答の割合は68%で目標値に達しなかった。様々な場面で児童自身が「考える」ことの楽しさを知り、課題解決に主体的になるよう授業改善に取り組む。	

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 無回答児童が多くいることが課題として考えられるため、国語では、漢字や文章の構成、算数では、図形等の公式や性質を学ぶ機会を増やすようにする。
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 学校課題研修と連携し、児童一人ひとりが自分の考えをもち、文章としてまとめる力がつくよう、授業改善を行っていく。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査の質問事項において、国語・算数が好きであるかの項目で肯定的な回答の割合を80%以上にする。	⇒ 児童一人ひとりが、学ぶことの楽しさを引き出す授業づくりをしていく。導入、発問の工夫、考えを共有する時間の確保を考えていく。

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」において、R4年度調査より国語+0.7pt、算数+0.3ptであった。国語の「文の中の主語と述語の関係の理解」についての問題や算数の「小数の減法」の問題の計算に課題が見られた。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語+1.3pt、算数+2.1ptであった。国語の「文の中の主語と述語の関係の理解」、「筆の運び方について」の問題や算数の「目盛りの大きさに注目して、適切なグラフを選択する」問題に課題が見られた。
小5	R5年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」において、R4年度調査より国語+2.7pt、算数+3.9ptであった。国語の「文の中の主語と述語の関係の理解」についての問題や算数の「基準量と比較量に着目し、式に合う問題を選ぶ」、「単位量あたりの大きさを用いて、こみ具合を比べることができる」についての問題に課題が見られた。	小6	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、R4年度調査より国語+1.1ptであった。国語の「文の中の主語と述語の関係の理解」についての問題や算数の「問題の場面を把握し、円の半径から円周を求めること」や「数量が変わっても割合が変わらない」等の問題に課題が見られた。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査国語「知識・技能」において、R4年度調査より小4+1.3pt、小5+1.8pt、小6+1.1ptであった。また算数は、小4+2.1pt、小5+2.4ptであった。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査国語「思考・判断・表現」において、R4年度調査より小3+0.7pt、小4+0.6pt、小5+2.7ptであった。また算数は、小3+0.3pt、小5+3.9ptであった。	B
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査の質問事項において、国語・算数が好きであるかの項目で肯定的な回答の割合は、約80%であった。目標達成のため、導入の工夫や児童がわかった、できた、面白いと思える授業展開をする必要がある。	C

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的にR4年度調査と比べ、おおむね基礎学力の定着を図ることができた。しかし、個人差が大きいことから個別最適な学びを充実させる必要がある。また朝学習の時間での基礎学力の定着を図る取組を増やす。次年度は全校で、国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」や算数「数と計算」を重点的に取り組み、R6年度の全国学力・学習状況調査や市学習状況調査で検証したい。
思考・判断・表現	学校課題研修と連携し、協働的な学びの充実や児童一人ひとりが考えをもち、表現する場面を設定した言語活動を展開し続けることや、各教科で根拠となる文章、資料を基に表現する経験を増やすことで自己の考えをまとめる力を高めていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度の小5・6の「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」や「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問項目については、約90%の肯定的な回答の割合を維持し、国語・算数は好きですかの肯定的な回答の割合を増やすため、授業内でICTを活用した実践や児童がわかった、できた、面白いと思える授業づくりを全校で取り組む。

※評価  
 A 8割以上(達成)    B 6割以上(概ね達成)    C 6割未満(あと一歩)